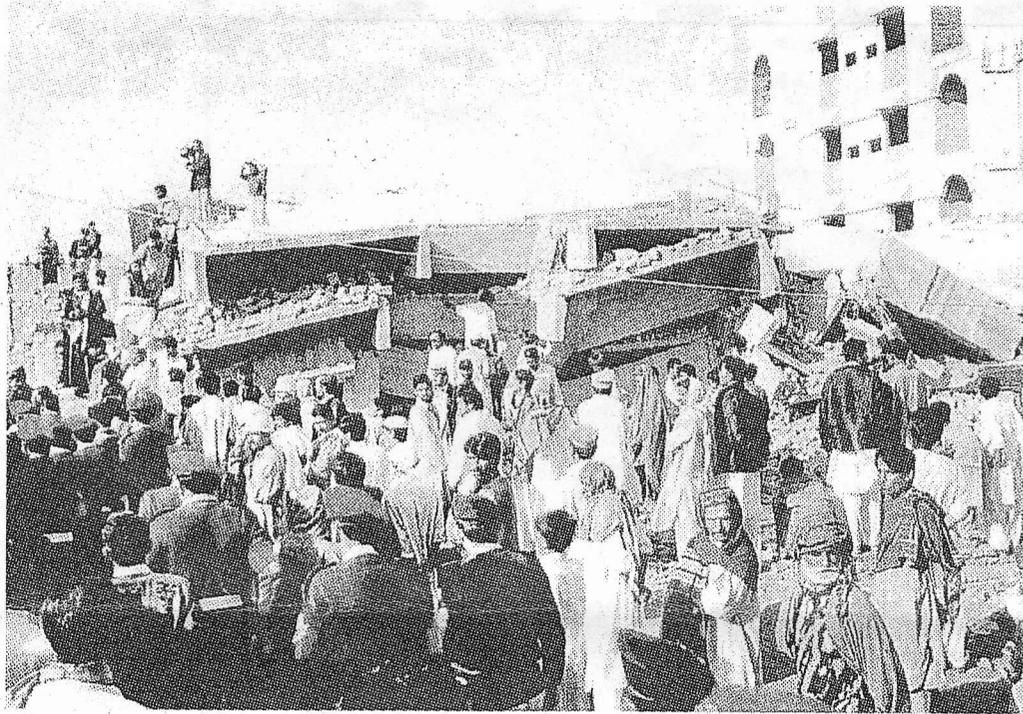


インド 西部地震

国家の祝日一転し惨劇

ビル倒壊、救出作業続く

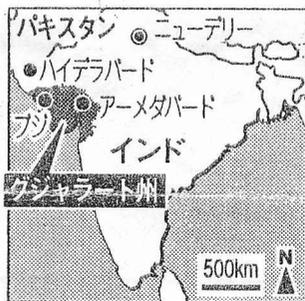
【ニューデリー26日共同】倒壊して粉々になったビルの現場で、クレーンや手作業で続く救出作業。肉親の安否を心配そうに見守る住民たち。憲法記念日(リパブリックデー)の二十六日朝、インド西部を中心に同国全土を襲った地震は、首都での軍事パレードなど国家の威信を示すはずだった年に一度の「特別な祝日」を暗転させた。(1面に関連記事)



西部グジャラート州の中
心都市アーメダバードでは
十五余りのビルやアパート
が倒壊、がれきの中から遺
体が運び出される度に、遺
族の悲痛な声が上がった。
テレビの取材に答えた住民
は「経験したことのない大
きな揺れが続き、危ないと

26日、強い地震が襲った
パキスタンのハイデラバ
ードで倒壊したビルのが
れきの中から生存者を探
す人々(AP共同)

ないこの地域では、建物の
耐震対策は皆無に近い。
救出作業や被害状況把握
で陣頭指揮をとる州当局者



分かっていても自宅から逃
げ出せなかった」と恐怖を
語る。地震のほとんど起き

は「電話など通信回線がず
たずたでお手上げだ」と、
いら立ちを隠さない。
国営テレビは地震後もバ
シパイ首相らが出席した首
都ニューデリーでの軍事パ
レードを延々と報道、すぐ
に地震一色の速報合戦とな
った民間テレビとの違いが
目立った。

AMDAが

医師派遣検討

日本赤十字社は二十六

日、地震で大きな被害が出
ているインドのグジャラ
ト州に医療チームを派遣
し、現地で医療活動を行
うことを決めた。

派遣されるのは熊本赤
十字病院の宮田昭医師
(西)ら十三人。三人は二
十七日、十人は二十八日
に出発する。期間は約二
週間、仮設診療所を設
置しけが人などの手当て
を行う。

また大規模な火山噴火が
切迫しているインドネシ
アのジャワ島に二十七日、調
査のため医師一人を派遣す
る。

一方、国際医療ボランティア
団体AMDA(本部照
山市)も二十六日、インド
に医師を派遣することを検
討している。